

【平成23年度】

# ～「水が織りなす安曇野今昔物語」講座～

～豊科編～

## 第5回



とき：11月19日（土）午後7時から

演題：【豊科ゆかりの偉人たち】

講師：安曇野市豊科総合支所市民福祉課 課長

高原 正文さん

## 第5回「豊科ゆかりの偉人たち」

H23. 11. 19

□信州の風土が育んだ豊科の逸材たち、信州の風土に魅せられ安曇野へ来住した著名人

A. 地域貢献型(名利を求めず奉仕の心で地域社会の向上に尽力)の人材 地域⇒地域

**岡村勘兵衛**(拾ヶ堰開削の功労者)、**藤森桂谷**(安曇野の近代教育の先駆者、文人画家)、  
**岡村阜一**(有明山神社の確立・発展に貢献)、**三原儀十郎**(呉羽紡績誘致で豊科を県下有数の工業都市にする礎を築いた名町長) 他

B. 全国へ飛躍する型の人材 地域⇒全国

**丸山貫長**(岡倉天心が心服した宗教家)、**藤森秀夫**(独文学者、詩人、童謡「めえめえ児山羊」の作詞者)、**飯沼正明**(「神風号」で亜欧連絡大飛行を驚異的な記録で成功させた飛行家)、**平林広人**(北欧文学者、木崎夏期大学の創始者)、**熊井啓**(社会派映画の巨匠)、**藤原保信**(政治学者、早大教授) 他 ⇒ 人材こそ最大の宝とする教育県「長野県」らしさが出ている。

C. 信州安曇野に来住し大きな業績を残した人々 全国⇒地域

**田淵行男**(高山蝶の研究家、山岳写真家) 他

※ゴチックは今回詳述の対象、その他の人物は『南安曇郡誌第三巻下』の人物誌を参照。

□忘れえぬゆかりの偉人たち

1. **岡村勘兵衛(1778~1868)** 拾ヶ堰開削の功労者! A

(1)業績

近世後期、拾ヶ堰開削を果たし安曇野を肥沃な大地に変えた。灌漑面積約1,000ha。拾ヶ堰なくして安曇野の田園風景なし。



安曇野の田園地帯を貫流する拾ヶ堰

(2)略歴

1778年(安永7年) 吉野村の庄屋岡村小兵衛の長男として生まれる。父が庄屋を辞めたあと、吉野村の庄屋となる。若くして吉野村も含め吉野村以北および以西に遅れが目立った<広大な原野や耕土層厚い畑地の水田化>の必要から奈良井川(当時「木曾川」の呼称だった)から用水の水を採り入れることを構想していた。

1801年(享和元年) 保高町村で酒造業を営み庄屋でもあった白沢民右衛門(岡村勘兵衛の親戚)と同村の元右衛門の二人が岡村勘兵衛のところへ奈良井川からの取水による大堰の取水を相談。このとき3人で熊倉巾下から中曽根河原へ堰(用水路)を掘りぬくことを検分した。これが勘兵衛にとって拾ヶ堰(当初この呼称はなく単に「新堰」)開削の動機となった。しかし拾ヶ堰開削には①奈良井川から穂高柏原方面まで堰を通すには地形が複雑で測量が困難②どう梓川を横断させるか③堰筋(堰の通路)の距離は、3里以上が想定され、また灌漑すべき土地の面積が非常に広大なため想像を絶する水量を要する④新堰の堰筋には当然既存の耕地や宅地が随所に立地しており、堰筋にあたる農民からの反発が予想される、の4つの難問を解決する必要があった。これより実地踏査を重ね、実現可能との結論に達したので各所に折衝のため奔走。

1813年(文化10年) 11月に松本藩の川除方の役人による最初の堰筋視察(内見分)の案内を同志中島輪兵衛(元柏原村庄屋)、平倉六郎右衛門(下堀金村作世話役)、関与一右衛門(柏原村庄屋)、白沢民右衛門(保高町村庄屋)、勘兵衛の5人で行う。

1815年(文化12年) 8月に松本藩役人、保高組大庄屋代等々力孫一郎、地元代表の岡村勘兵衛ら上述の同志による堰筋の本格的測量を実施、10月の堰筋設計変更等のもと12月に関係十ヶ村の庄屋、組頭、長百姓と連名で新堰開削の願出書を大庄屋経由で松本藩に提出。

1816年(文化13年) 2月～5月に拾ヶ堰開削工事。勘兵衛は工事人夫の割当、賃金調達・支払いにあたる。

1868年(慶応4年) 死去。

### (3) コメント・エピソード

①難工事のため本当に完成するのか怪しくなりだした頃に工事人夫たちの士気が一気に低下し倦怠のムードが漂い本当に工事が途絶する危機に陥ったので、資金調達難の中、途中で一封の品(偽の金の包み)を見せて、あたかも大金であるかのごとく装い工事人夫たちの士気を喚起した。落首「勘兵衛此度はうそ取敢えず久能山、砥石集めて金のまねまね」。

②米寿のとき「粟稗の米となりしか寿よ 八十八翁」と詠み、拾ヶ堰開削の効果を喜んだ。

### (4) 参考文献

①『南安曇郡誌 第二巻下』②『南安曇郡誌 第三巻下』③豊科町教育委員会編『命の水』

## 2. 藤森桂谷(1835～1905) 安曇野近代教育の先駆者、自由民権運動家、文人画家

A



藤森桂谷翁銅像



藤森桂谷顕彰碑

## (1)業績

①教育上の業績 私財を投じて私塾「実践社」を開設。高遠の漢学者高橋白山を招いて塾頭とした「実践社」とそれを発展させた猶興義塾(木曾から武居用拙を招き塾の教育にあたってもらったので武居用拙塾と呼称)での青少年教育から松澤求策(自由民権運動家)、降旗元太郎(代議士)、堀内千万蔵(塩尻町長、地域史研究者)らの人材を輩出した。

成新学校で学事掛として教鞭をふるったあと豊科学校首座教員(校長)。県会議員のあと請われて北山学校、小倉学校でも教鞭をふるい明治初年から中期までの地方近代教育の先駆者となる。

②政治上の業績 自由民権運動結社である奨匡社の結成に創立委員で関与し社員となって自由民権運動に尽力。豊科村議会議員(副議長)、長野県議会議員を歴任する。しかし正義心から「みそなめ演説」を残して長野県会議員を辞すなど政治家としては挫折する。

③文人画家としての業績 400点を下らない作品を残す。豊科郷土博物館には「夏山聴瀑」などの傑作が所蔵されているが作品の多くは南北安曇野の収集家の手にある。彼の作風は「真景」にこだわった山水画、花鳥図に特徴を見るが書・詩・画が三位一体になった文人画(南画)らしい詩趣豊かな清雅な作品が多い。京都国立博物館の松下隆章館長から見てもらった際に好評を得ている。弟子に井口香山がいる。

④有明山神社の文化の向上に寄与(神楽殿天井絵完成に尽力、献詠参加、額絵「連戦連勝」奉納)

## (2)略歴

1835年(天保6年)10月、新田町村の藤森家に生まれる。幼名:由之助、のち厚、寿平。雅号は桂谷、桂谷山人、莘田、麦里、南安迂農ほか。

1846年(弘化3年) 本家の「藤のや」で学問所を今の新田公民館の場所に建てる。そこに招かれた寺所村の儒学者細萱修安に学問を学ぶ。

1854年(安政元年) 松本に来た画家古曳盤谷に入門。

1858年(安政5年) 古曳盤谷、歌の師匠丸山保秀らの勧めにより京都にのぼり勉学。儒学者山中静逸に漢学を、村山半牧に絵を、桂谷派歌人香川陰恒に歌を学ぶとともに、維新の志士藤本鉄石らと親交を深める。

1859年(安政6年) 年末、安政の大獄の嵐が吹き荒れる京都にいる息子の身を心配した母に促され帰郷。

1870年(明治3年) 9月、松本藩知事に学校設置の建白書を提出。

1871年(明治4年) 法蔵寺の正授軒に実践社を開設、旧高遠藩主高橋白山を塾頭に迎え青年教育にあたる。

1873年(明治6年) 成新学校開設、高橋白山の推挙(筑摩県権令永山盛輝に対し)により教員免許講習をへて学事掛となる(高橋白山は穂高の研成学校の学事掛に転じる)。

1875年(明治8年) 9月、成新学校に変則課を設け猶興義塾と命名、武居用拙を塾頭に招き青年教育にあたる。自由民権運動家松澤求策、猶興義塾の塾生となる。

1876年(明治9年) 3月、豊科学校(のち豊科尋常小学校)落成、首座教員(校長)となる。

1879年(明治12年)9月、豊科村議会で副議長に選出。

1880年(明治13年)1月、長野県議会議員補欠選挙に当選。2月、自由民権運動の結社奨匡社の創立委員20名に名を連ねる。12月、「みそなめ演説」を残し県会議員を辞す。

1883年(明治16年)6月、友人で北安曇郡長の窪田畔夫の要請で広津村の北山学校に赴任。

首座教員(校長)を務めるとともに、紛糾していた北山学校の本校移転新築場所問題を解決、

無事開校にこぎつける(池田町広津北山に桂谷の顕彰碑が今も残る)。

1884年(明治17年)7月、第2回内国絵画共進会(審査委員長:文学博士 細川潤次郎<のち桂谷没後、藤森桂谷顕彰碑の碑文を書く>)に絵を出品、長野県から賞状を授与される。

1885年(明治18年)9月、長野県から永年の教育功績により三つ組木杯が授与される。

1886年(明治19年)4月、母への孝養から南安曇郡長の要請を受け堀金学校小倉支校(小倉学校)の首座教員に就任。5月、東洋絵画会主催東洋絵画共進会に出品した絵が同共進会の3等賞となり山品宮から賞を受けている。

1889年(明治22年)9月、絵画修業のため、3ケ年にわたる越後・東北方面への旅に出る。

1891年(明治24年)2~4月、女川の萬蔵寺で羅漢像の絵と涅槃図を描き完成させる。6月、東京に行き画家川辺御楯を訪問。

1892年(明治25年)4月、郡山の如法寺の天井絵を完成させる。9月、東北遊歴から帰着。

1893年(明治26年)5月、豊科西郊の除沢のほとりに羅漢堂完成し俗塵を離れた生活に入る。

1896年(明治29年)6月、有明山神社長岡村阜一が同神社額面下絵の依頼のため来訪。

1897年(明治30年)10月、有明山神社の献詠式に参加(以後幾度も)。

1899年(明治32年)10月、桂谷が「民権運動の宗」と称した多田加助の顕彰碑建碑のため松本に滞在中の書家中林梧竹を訪ね碑文の揮毫を依頼する(碑文の撰文は武居用拙)。同月、有明山神社に出向き神社額面下絵を完成させる。

1900年(明治33年)11月、有明山神社長岡村阜一が同神社神楽殿天井絵を大家に依頼する件について相談のため来訪。12月、日本美術院会員になる。

1901年(明治34年)10月、岡村阜一から頼まれた天井絵の揮毫を橋本雅邦、川村雨谷らの大家に依頼。

1902年(明治35年)7月、自由民権運動家松澤求策の墓標の辞を西園寺公望に依頼することを降旗元太郎と相談する。9月、有明山神社へ出向き神楽殿の天井絵をしたためる。10月、上京し川辺御楯のもとで絵画の修行を行う。

1903年(明治36年)1月、日本美術院で巨匠横山大観に会う。

1905年(明治38年)5月、川村雨谷のもとで絵画の修行を行う。7月死去(享年70歳)

### (3)コメント・エピソード

①豊科という村名は村が発足した明治7年(1874)に当時成新学校学事掛の任にあり大区会議人として区会にも連なった指導的文化人であった藤森桂谷によって発案されたという。トヨシナのトは鳥羽(上鳥羽村・下鳥羽村)のト、吉野(吉野村)のヨ、新田(新田町村)のシ、成相(本村<成相本郷なので江戸前期には成相本村と呼称>、成相町村)のナをとってトヨシナとしたという(『豊科町誌』)。豊科村という村名になるまでに「成合」という案もあったそうだが、豊科という地名が採択されたという(『豊科町誌』)。

②明治33年(1900)有明山神社の増築の際、有明神社長岡村阜一から有明山神社神楽殿の天井絵を大家の絵で飾りたいとの相談を受けた桂谷は、明治34年(1901)上京し橋本雅邦、川辺御楯らの著名な日本画家から描いてもらうことに成功する。「現今有明山神社神楽殿天井画中、特に丁重に保存してある、橋本雅邦『からす』の画を得たときの如きは、翁(桂谷)の得意想ふべく、日記中特に『此の行の本望なり』と筆太に記して居る」(『藤森桂谷遺墨遺稿集』<昭和4年刊>P502)。県内関係では児玉果亭らの有力日本画家から描いてもらう。

### (4)参考文献

①中野正實『夜明けの鐘 桂谷藤森寿平小伝』②南安曇教育会編『藤森桂谷の生涯』

3. 岡村阜一(1839~1914) 有明山神社の神威を上げ「信濃日光」にまで整備! A

(1)業績 天明行者のあとを受け、巨額の私費を投じ、荒廃していた有明山神社(有明山山頂奥社の里宮)を建設・復興。30年にわたり同志の浄財等で有明山神社の施設を整備し「信濃日光」といわれるまでにした。裕明門は日光東照宮の陽明門を模したとされる。有明講を興し、松本平一円に講が広がり最盛期 800 の講が存在し(講員約 3,200 人)、信者の家数は実に約 30,000 戸にも及んだ。有明山神社献詠歌集『残月集』の編集に尽力し全国の有名歌人 1,200 名の歌を収めた。

(2)略歴

1839 年(天保 10 年) 寺所村(現安曇野市豊科南穂高寺所)に生まれる。

幼少期 寺所村の漢学者・歌人細萱伝平に書と和歌を学ぶ。

青年期 御嶽教の信者となり 33 回御嶽山に登り修行を積む。22 歳で家督を継ぎ全国の霊山へ登山に励む。明治維新までには御嶽行者となり、累進して大教正の地位にまでなり先達者として認められた。

1878 年(明治 11 年) 明治この年から 3 年かけて里宮を復興する。

1888 年(明治 21 年) 有明山神社里宮の増築を完成させる。以後付属施設整備に一生を捧げる。

1897 年(明治 30 年) 有明山神社献詠歌集『残月集』を刊行。

1914 年(大正 3 年) 死去。



日光東照宮陽明門を模したとされる有明山神社裕明門

(3)コメント・エピソード

①「信濃日光」といわれるゆえん 本物の日光は①山紫水明の地であり、そこに二荒山神社(ふたらさんじんじゃ)、輪王寺、日光東照宮といった社寺が立地するが二荒山神社が日光三山(男体山<二荒山>、女峯、太郎山)をご神体とする②山岳信仰の里宮であること、日光東照宮に③陽明門があることが似通った点。

(4)参考文献

①『南安曇郡誌 第三卷下』②『豊科町誌 別編(民俗Ⅱ)』

#### 4. 三原儀十郎(1875～1965) 豊科町を工業都市に成長させる礎を築いた町長

A

##### (1)主な業績

- ①県立南安曇農学校、県立豊科高等女学校の設置に尽力。
- ②昭和 6 年豊科町のうち市街地を形成する成相・新田に南安曇郡下初の上水道を敷設。このことが数年後の工場誘致の伏線となった。
- ③昭和 12 年呉羽紡績の工場を誘致、子会社豊科紡績として昭和 14 年に操業。今日の工業都市豊科の基盤を築いた。呉羽紡績側は①貨物の引込線を敷設できる駅のすぐそばに広大な用地が準備できること②工場の工業用水と寄宿舎や社宅の生活をまかなえる上水道が敷設されていることを前提としていたが、いずれもクリア。

##### (2)略歴

- 1875 年(明治 8 年) 豊科村新田の三原文十郎の長男として生まれる。
- 1898 年(明治 31 年)～1913 年(大正 2 年) 南安曇郡役所を振り出しに上伊那郡、東筑摩郡などの郡役所書記を務める。
- 1915 年(大正 4 年) 退官後、豊科の実家へ戻り、醤油の醸造を始める。
- 1917 年(大正 6 年)～1925 年(大正 14 年) 豊科町議会議員。
- 1923 年(大正 12 年)～1928 年(昭和 3 年) 豊科町専任学務委員。
- 1924 年(大正 13 年)～1931 年(昭和 6 年) 豊科町商工会長。
- 1928 年(昭和 3 年)～1929 年(昭和 4 年) 豊科町助役。
- 1929 年(昭和 4 年)～1941 年(昭和 16 年) 豊科町長。南安曇郡町村長会長。
- 1935 年(昭和 10 年) 皇太子殿下生誕記念公園の設置に尽力(昭和 9 年に寄付を募る)し設置。
- 1936 年(昭和 11 年)～1941 年(昭和 16 年) 豊科町産業組合長。
- 1937 年(昭和 12 年)～1941 年(昭和 16 年) 長野県町村財産管理組合副組合長。
- 1938 年(昭和 13 年)～1941 年(昭和 16 年) 長野県町村長会副会長。
- 1951 年(昭和 26 年)～1962 年(昭和 37 年) 長野県市町村職員恩給組合公平委員長。
- 1965 年(昭和 40 年) 死去。

##### (3)コメント・エピソード

- ①戦争の時代に突入しつつある時代に一時的な軍需産業ではなく恒久的な繊維産業を選択したことは先見の明があったというべき。昭和 20 年代から 30 年代にかけての豊科町は呉羽紡績豊科工場の「企業城下町」の観を呈した。町財政にひ益すること多大なものがあった。このことから豊科町は時田季実町長のときにあたる昭和 28 年に県内の町村に先駆けていち早く工場誘致条例を制定している。
- ②多年にわたる自治功勞により従六位勲六等单光旭日章を贈られている。

##### (4)参考文献

- ①『南安曇郡誌 第三卷下』

#### 5. 藤森秀夫(1894～1962) 全国的に知られる童謡「めえめえ児山羊」の作詞者

B

##### (1)主な業績

- ①『童話』大正 9 年 6 月号から大正 11 年 3 月号まで数々の童謡詩を発表、日本の童謡の発展に貢献した。
- ②詩集『こけもも』『フリージア』『紫水晶』『櫻』等の名詩集を著し日本近代詩史に着実な足跡を残した。

③ドイツ文学者としてゲーテの研究に心血を注ぎ、特にゲーテとハイネの詩の翻訳では著名。



藤森秀夫童謡碑

## (2)略歴

- 1894年(明治27年)3月、豊科村新田の医師藤森與八郎の長男に生まれる。
- 1918年(大正7年)3月、東京帝国大学文学部ドイツ文学科卒業。
- 1919年(大正8年)10月、第一詩集『こけもも』を出版。
- 1920年(大正9年)三木露風、日夏耿之介、堀口大学らとを創刊。雑誌『童話』に童謡を発表しはじめる。
- 1921年(大正10年)「めえめえ兎山羊」「フリヂヤ」「父さんどうど」などを作詞、本居長世や山田耕作が曲をつける。小型詩集『フリヂヤ』を金星堂から出版。叙情詩集『若き日影』を香蘭社から出版。
- 1922年(大正11年)同人誌『詩聖』を改題して『地霊』とし、この同人誌を主宰する。慶応義塾大学、明治大学で教鞭をとる。
- 1923年(大正12年)旧制第五高等学校教授となる。ゲーテ全集の第一巻をゲーテ詩集として出版。
- 1926年(昭和元年)旧制富山高等学校教授となる。
- 1927年(昭和2年)詩集『紫水晶』を金星社から出版する。
- 1929年(昭和4年)詩謡集『稲』を光奎社から出版する。
- 1933年(昭和8年)ドイツのベルリン大学に一年留学する。
- 1945年(昭和20年)8月、富山市で空襲に遭い、豊科町へ引き揚げる。
- 1947年(昭和22年)旧制第四高等学校(のちの金沢大学)教授となり金沢へ単身赴任。この年から昭和29年頃までゲーテの詩型に関する研究論文を精力的に発表する。東西文庫から訳詩集『ハイネ詩集』を出版する。
- 1949年(昭和24年)新制金沢大学の教授となる。東京総合出版社から『ゲーテ詩集』を出版。
- 1950年(昭和25年)東京総合出版社から『イギリス浪漫詩集』を出版。
- 1954年(昭和29年)金沢大学を退官。明治大学、早稲田大学のドイツ語の講師となる。
- 1960年(昭和35年)郁文堂から詩・随筆・論集『櫻』を出版する。

1962年(昭和37年)東京立川病院で死去。

1964年(昭和39年)5月、豊科中学校校庭(現・豊科近代美術館敷地)に藤森秀夫童謡碑が完成、除幕式を行う。

(巻山圭一「藤森秀夫」〈『深志人物誌Ⅲ』所収〉を参考にした)

### (3)コメント・エピソード

#### ①正統な再評価が待たれる詩人

早大独文科出身の藤田圭雄の著書『日本童謡史Ⅰ』(昭和46年あかね書房刊)のP520に藤田は「詩人としての藤森秀夫は、もうほとんど忘れられようとしている。『日本詩人全集』にも彼の名はない。しかしわたしは、この七冊の詩集を残していった詩人を、そう簡単に抹殺してしまってよいものとは思わぬ。その詩型は大正時代に流行した象徴詩風のものである。しかし、その基盤にはドイツ思想詩風の流れがある。」と独文科出身者らしいコメントをしている。藤森が活躍した大正時代から昭和初期にかけて詩壇の最高峰は萩原朔太郎であり童謡詩では有名な西条八十が活躍していた。その当時に日本詩壇において藤森秀夫が何を残したか。今こそ豊科出身のこの誇るべき詩人の再評価をすべき時ではないだろうか。

②「めえめえ児山羊」は藤森秀夫の全くの創作になる詩ではなく、原詩があり、それはドイツに伝わるわらべ歌であった。これを日本語に翻案(訳)したものである。ドイツ語に堪能な彼らしい手法である。(藤田圭雄『日本童謡史Ⅰ』参照)

#### めえめえ児山羊

#### めえめえ 森の児山羊

児山羊 走れば 小石にあたる  
あたりや あんよが あ いたい  
そこで児山羊は めえ と なく  
(以下略)

③藤森秀夫が訳したゲーテ「野ばら」(Heidenröslein)を紹介しておく。藤森は「荒野の茨」と題名を和訳。

#### 荒野の茨

〈原語〉

〈人口に膾炙した近藤朔風訳野ばら〉

子供は見つけた Sah ein Knab' ein Röslein stehn,  
荒野の茨 Röslein auf der Heiden.  
若くて綺麗 War so jung und morgenschön,  
駆け付けて見た Lief er schnell, es nah zu sehn,  
喜溢れ。 Sah's mit vielen Freuden.  
茨、茨、紅茨 Röslein, Röslein, Röslein rot,  
荒野の茨 Röslein auf der Heiden.

(以下略)

(以下略)

わらべは  
見たり 野なかのばら  
清らに咲ける  
その色愛でつ  
飽かずながむ  
紅(くれない)におう  
野なかのばら

(以下略)

### (4)参考文献

①藤田圭雄『日本童謡史Ⅰ』(昭和46年あかね書房刊) ②巻山圭一「藤森秀夫」(『深志人物誌Ⅲ』所収)

## 6. 飯沼正明(1912~1941) 国産飛行機「神風号」で亜欧連絡大飛行に成功

B



飯沼正明銅像



飯沼正明の生家

### (1)主な業績

- ①昭和12年、東京-ロンドン間の亜欧連絡大飛行を94時間17分56秒(実飛行時間51時間19分23秒)の驚異的な記録で達成。

### (2)略歴

- 1912年(明治45年)南穂高村(豊科南穂高)細萱に生まれる。  
1931年(昭和6年)10月、所沢陸軍飛行学校卒業。  
1932年(昭和7年)11月、朝日新聞社に航空部員として入社する。東京新潟間の定期飛行、日本国内各地や台湾・満州等に、ニュース写真の空輸、航空写真撮影、宣伝飛行などを行い飛行士の技量を磨いた。  
1934年(昭和9年)9月、北平(北京)を訪問し日本・中国間の初めての航空路を開拓する。  
1935年(昭和10年)、台湾大地震の際に日本初の長距離高速通信飛行の記録を作り、「空の覇者」「朝日の飯沼」と絶賛された。  
1937年(昭和12年)4月6日、朝日新聞社が企画した亜欧連絡親善飛行のため純国産飛行機「神風号」に塚越機関士とともに搭乗し立川飛行場を出発、4月10日ロンドンのクロイドン飛行場に到着するや熱狂的な大歓迎を受ける。国内・国外の新聞各紙は「世界の鳥人」と絶賛を惜しまなかった。  
1941年(昭和16年)7月、陸軍航空本部嘱託となる。12月、プノンペンの飛行場で死去。

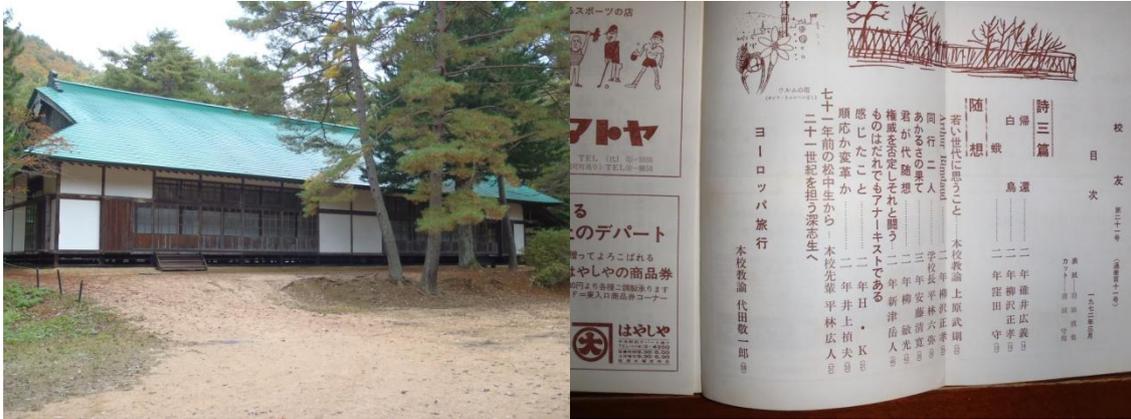
### (3)コメント・エピソード

- ①飯沼正明が飛行士に憧れるようになった最大のきっかけは、南穂高尋常高等小学校の3年の頃、豊科村上鳥羽出身の長谷川清登飛行士(我が国初の一等飛行機操縦士)が双葉機でやってきて南穂高の上空を飛行しているのを教室の窓から見たことだという。
- ②亜欧連絡親善飛行にあたり朝日新聞社が「神風号」がクロイドン飛行場へ着くまでの所要時間はどのくらいになるか、との懸賞募集を行なったところ、474万通もの応募があったというから、全国民を挙げて飯沼飛行士・塚越機関士の快挙を願っていたことが分かる。
- ③飯沼正明は重要な任務を帯びて北部マレーシア方面の戦線で飛行中、敵の砲火を浴びて名誉の戦死を遂げたことになっているが、真実は飯沼正明の不注意からプノンペン飛行場(カンボジア)内で飛行機のプロペラに触れたための事故死であった。日本の開戦を知ってショックのあまり憔悴してフラフラと滑走路付近を歩いていたところプロペラを回して出発せんとする飛行機に気がつかなかったという。軍は真相を伏せただけでなく「血染めの操縦桿」という美談を仕立て、教科書に載せた。そのことを塚越賢爾機関士は激しく怒った。

#### (4)参考文献

- ①『南安曇郡誌 第三巻下』②『深志人物誌 I』③深田祐介『美貌なれ昭和一諏訪根自子と神風号の男たち』(昭和 58 年文芸春秋)

### 7. 平林広人(1886~1986) アンデルセン研究者、信濃木崎夏期大学の創始者 B、A



信濃木崎夏期大学の開催会場「信濃公堂」 松本深志高校『校友』21号(昭和47年)に寄稿

#### (1)主な業績

- ①信濃木崎夏期大学の創設。
- ②隣組組織の創設、育成、推進。
- ②農業国デンマークにおける農政事情を調査し、報告することで日本の農村振興策に寄与。またデンマーク体操の普及を図るなどデンマーク王国の様々な暮らしや文化などの紹介に努め、デンマーク王国からリッター・アフ・ダンボネグル勲章を授与される。
- ③翻訳と研究を通してわが国へのアンデルセン文学を紹介。『アンデルセン研究』は重版。

#### (2)略歴

1886年(明治19年)4月、上川手村光(豊科光)の平林広十郎の長男に生まれる。父は上川手村の村長を務め、母は穂高の望月家から嫁いできたが、母の実家の従弟にのちにドイツ文学者になる望月市恵(旧制松本高校・新制信州大学教授。トーマス・マン『魔の山』やリルケ『マルテの手記』の翻訳は名高い。信州大学教授のとき、教え子の熊井啓(映画監督)に「君は映画の道を進みなさい」と助言し熊井の一生を決定づけたことでも知られる)がいた。

1905年(明治38年)3月、松本中学校卒業。中学在学中、日本メソジスト松本教会に通い受洗。

1906年(明治39年)9月、日本メソジスト教会福音士の試験に合格。長野部の伝道を開始。

1908年(明治41年)青山学院高等科退学後、長野県教員検定試験合格。

1915年(大正4年)北安曇郡陸郷北小学校長になる。陸郷時代に「山深い交通不便な山村の村づくり」と「デンマーク式農村教育の実践」を構想している。

1916年(大正5年)『信濃教育』に夏期大学開設の促進文「信州大学の第一歩として夏季大学の開設を促す」を発表。翌、1917年(大正6年)に財団法人信濃通俗大学会の設立が認可され、8月に木崎夏期大学を開設。

1921年(大正10年)~1924年(大正13年)木崎夏期大学の開設に注目した東京市長後藤新平の要請により東京市社会教育課(市民自治訓練事務担当)嘱託となる。

1924年(大正13年)東京市を退職し少年団日本連盟常務理事となる。『農民の国デンマーク』

を出版したあと、デンマークに渡り第2回世界ジャンボリーおよび第3回ボーイスカウト国際会議に参加。さらにデンマークにとどまり農政事情を視察。デンマーク在留中、王国立図書館等でアンデルセンの調査研究も行う。

1925年(大正14年)4月～7月、アスコフ国民高等学校に学び、12月に帰国。帰国後、日本各地でデンマーク教育の講習会を開くとともにデンマーク体操の普及に努める。

1926年(大正15年)11月、デンマークを日本へ紹介した功績によりデンマーク王国皇帝からリッター・アフ・ダンボネグル勲章が授与される。

1928年(昭和3年)『デンマルク』(『農民の国デンマーク』改題)を文化書房から出版。

1930年(昭和5年)『<sup>デンマーク</sup>丁抹農村文化の神髄』(『農民の国デンマーク』改題)を文化書房から出版。この著書の初めに自序やデンマーク代理公使のほか社会局長吉田茂(のち首相)の「<sup>デン</sup>丁抹<sup>マ</sup>国民高等学校の感銘」が掲載されており注目される。

1933年(昭和8年)7月、満州国新京にメソジスト教会を創設するため、満州に渡る。

1935年(昭和10年)～1947年(昭和22年) 再度東京市囑託となり、選挙粛正事務担当。選挙粛正下部組織を検討することから隣組運動に入り、この企画、育成、推進に忙殺され、アンデルセン研究どころではなくなる。

1947年(昭和22年) 日本基督教平和教会主事、キリスト教中央図書館館長になる。この年、原典から翻訳した『アンデルセン童話集 第一編』をコスモポリタン社より出版。昭和24年6月に第四編まで出されている。

1953年(昭和28年)～1955年(昭和30年) 世界連邦世界運動第5回大会に参加のため法政大学教授谷川徹三(哲学者)らとデンマークに渡る。大会後もとどまり、デンマーク国民高等学校の援助金を得て、アンデルセンの資料を多量(約500点)に収集した(昭和31年、これらの資料は青山学院大学図書館にデンマーク文庫として収められている)。

1966年(昭和41年) 平林広人のデンマーク研究とアンデルセン研究を高く評価した東海大学の招きにより東海大学講師となる。11月、勲五等旭日章受章。

1967年(昭和42年) 東海大学に北欧文学科開設。主著『アンデルセンの研究』が東海大学出版会から出版される。

1972年(昭和47年)1月、「さよなら講義」を最後に東海大学講師を辞職。以後、郷里の光に戻り著述や翻訳などをして余生の最晩年を過ごす。

1986年(昭和61年)2月、豊科赤十字病院で死去。

### (3)コメント・エピソード

①平林広人の一生は上川手村の村長を務めた父親平林広十郎の「おまえは人づくりをやれ」といわれたことが大いなるヒントになっている。

### (4)参考文献

①上條宏之「平林廣人」(『深志人物誌 II』所収)

## 8. 熊井啓(1930～2007) 「黒部の太陽」等で知られる社会派映画の巨匠 【名誉市民】 B、A

### (1)主な業績

①社会派映画の巨匠として「帝銀事件・死刑囚」「黒部の太陽」「地の群れ」「朝焼けの詩」「サンダカン八番娼館」「海と毒薬」「日本の黒い夏 冤罪」などの傑作映画を次々と制作・公開し、日本社会にうずまく諸問題を投げかけた。

②旧制松本高等学校本館・講堂の文化財的価値を見抜き、先頭になって保存運動を展開。今日

国重要文化財として残るに至り、あがたの森文化会館として有効活用されている。



旧制松本高等学校本館(国重要文化財)

熊井啓記念館(豊科交流学習センター内)

## (2)略歴

- 1930年(昭和6年) 豊科町吉野の地主熊井家に生まれる。父は京城順天新聞社に勤めたジャーナリストだったが帰郷してからは製糸会社甲信明社の役員などを務めていた。母は高等女学校の数学教師だった。6歳まで豊科町で育つ(6歳のとき松本市へ転居)。
- 1948年(昭和23年) 旧制松本中学校をへて旧制松本高等学校文科乙類に入学。映画部入部。
- 1949年(昭和24年) 旧制松本高等学校1年修了。新制信州大学文理学部入学。松高演劇部の先輩の依頼で信大演劇部第1回旗揚げ公演を行う(演目は木下順二作「蛙昇天」)。
- 1952年(昭和27年) 黒澤明監督の映画「生きる」を観て大変な感銘を受ける。
- 1953年(昭和28年) 信州大学文理学部卒業、上京し独立プロの助監督になる。
- 1954年(昭和29年) 日活撮影所監督部に入社する。助監督の傍ら脚本家の仕事もこなす。
- 1959年(昭和34年) 12月、肺結核のため慈恵医大病院に1年半の長期入院。日活から契約解除もありうる薄氷の日々が続く中、生き抜くために赤木圭一郎や吉永小百合の映画の脚本を執筆。
- 1961年(昭和36年) 1月、慈恵医大病院を退院。
- 1962年(昭和37年) 井口明子と結婚。明子夫人は時々熊井啓作品の脚本を「桂明子」の筆名で共同執筆して夫を助けただけでなく、後にポプリ研究家、エッセイストとして一家をなす。
- 1964年(昭和39年) 「帝銀事件 死刑囚」で監督デビューを果たす。
- 1967年(昭和42年) 三船プロと石原プロが共同制作する「黒部の太陽」の監督に抜擢される。
- 1968年(昭和43年) 「黒部の太陽」公開、空前の大ヒットとなり1年間で733万7,000人もの観客動員があり日本映画史上に大きな足跡を残した。
- 1970年(昭和45年) 井上光晴の小説を映画化、差別のむごさを告発した「地の群れ」を公開。
- 1972年(昭和47年) 作家三浦哲郎の芥川賞受賞作「忍ぶ川」の映画化が完成し公開、この作品はキネマ旬報ベストワン賞・監督賞を受賞。
- 1973年(昭和48年) 開発の波が自然破壊だけでなく人間も滅ぼすことを訴えた「朝やけの詩」を公開。
- 1974年(昭和49年) 異国に売られたくからゆきさん(日本特に天草・島原出身の海外売春婦)からの聞き取りをまとめた山崎朋子のノンフィクションを映画化した「サンダカン八番娼館 望郷」を公開。主演の田中絹代と栗原小巻の名演技が光った。
- 1980年(昭和55年) 井上靖原作の小説を映画化した「天平の甕」を公開。

1981年(昭和56年)国鉄下山総裁の謎の轢死を扱った「日本の熱い日々 謀殺・下山事件」を公開。

1986年(昭和61年)遠藤周作の問題作を映画化した「海と毒薬」を公開。戦時下、米軍の捕虜を九州帝大で生体解剖した事実の残虐さを訴えた。

1989年(平成元年)井上靖原作の小説を映画化した「千利休・本覚坊異聞」を公開。

1992年(平成4年)戦時中に知床半島で起きた人肉事件を題材にした武田泰淳の小説を映画化した「ひかりごけ」を公開。

1997年(平成9年)遠藤周作の小説「わたしが・すてた・女」を映画化した「愛する」を公開。

2001年(平成13年)松本サリン事件を扱った「日本の黒い夏 冤罪」を公開。

2002年(平成14年)黒澤明晩年の映画脚本を映画化した「海を見ていた」を公開。これが熊井啓の最後の映画作品になった。

2007年(平成19年)5月、死去。

(3)コメント・エピソード

①熊井啓が映画監督を志すに至ったのは恩師望月市恵教授が「君は映画監督になるしかない」と勧めてくれたことが決定打となった。

(4)参考文献

①市民タイムス編『熊井啓への旅』②西村雄一郎『ぶれない男 熊井啓』③信濃毎日新聞社編集局編『信州映画人の贈り物』④川本三郎編『映画監督ベスト101 日本篇』

9. 田淵行男(1905～1989) 戦後安曇野に拠点をすえ活躍した高山蝶生態研究者、山岳写真家

【名誉市民】 C



田淵行男記念館



田淵行男の著作『山の手帖』

(1)主な業績

①北アルプス山麓のアシナガバチの生態研究に実績をあげた。

②生態が不明だった本州(北アルプスほか)の高山蝶や北海道の大雪山系の蝶の生態を実地踏査・観察・記録撮影・考察により明らかにした。特に彼の写生ならぬ「写蝶」は余人の追隨を許さぬ微細さと芸術の香気に特徴づけられている。

③山岳写真家として芸術性豊かな山岳写真の傑作を数多く残した。

(2)略歴

1905年(明治38年)6月4日、鳥取県黒坂村(現・日野町)に生まれる。  
1928年(昭和3年) 東京高等師範学校(のち東京教育大学<現・筑波大学>)博物科卒業。  
1928年(昭和3年)～1941年(昭和16年) 同校卒業後、富山県立射水中学校を振出しに教員生活。  
1941年(昭和16年)～1945年(昭和20年) 日本映画社教育映画部勤務。  
1945年(昭和20年) 東京から長野県西穂高村牧(のち穂高町牧)へ疎開。アシナガバチの生態研究に取り組む。教育スライド制作会社との契約で理科教材の制作・撮影を行う(昭和36年まで)  
1951年(昭和26年) 『アサヒカメラ』臨時増刊号として『田淵行男 山岳写真傑作集』刊行。  
1957年(昭和32年) 初の生態写真集『ヒメギフチョウ』が誠文堂新光社から刊行される。同年、日本昆虫学会創立40周年記念展「世界の昆虫展」に蝶の細密画(写蝶)147点と高山蝶の生態写真114点を出品する。  
1959年(昭和34年) 生態写真集『高山蝶』(朋文堂)刊行。  
1961年(昭和36年) 穂高町牧から豊科町南穂高の見岳町へ転居。  
1962年(昭和37年) 『小さなラガーたち アシナガバチの生態』を講談社から刊行。  
1967年(昭和42年) 日本写真批評家協会作家賞受賞。写真集『山の時刻』(朝日新聞社)刊行。  
1971年(昭和46年) 写真集『山の意匠』(朝日新聞社)刊行。  
1975年(昭和50年) 田淵行男をモデルにしたNHKドラマ「水色の時」がテレビ放映される。  
1976年(昭和51年) 環境庁から自然保護思想普及功労賞受賞。受賞当日、田淵は北海道の大雪山でダイセツタカネヒカゲの幼虫を追っていた。  
1978年(昭和53年) 生態写真集『大雪の蝶』(朝日新聞社)刊行。  
1979年(昭和54年) 新設の豊科町郷土博物館に田淵行男展示室が開設される。  
1982年(昭和57年) 写真文集『安曇野挽歌』(朝日新聞社)刊行。  
1983年(昭和58年) 日本写真協会功労賞受賞。  
1984年(昭和59年) 豊科町名誉町民第1号となる。  
1987年(昭和62年) 写真文集『山の手帖』(朝日新聞社)刊行。  
1988年(昭和63年) 3月～4月、豊科町郷土博物館において特別企画展「自然への讃歌 田淵行男展」が開催される。  
1989年(平成元年) 5月、豊科町内の病院で死去。  
1990年(平成2年) 7月、田淵行男記念館開館。

### (3) コメント・エピソード

- ① 豊科市街地東端にひろがる住宅街を「見岳町」というが、その命名者は田淵行男という。昭和36年に豊科に来た頃、新築なった自宅の周りにはあまり人家はなく、庭から北アルプスがよく眺められたことから付けたといわれている。
- ② 田淵行男が登った山の数は285にもなる。お気に入りの山は常念岳で生涯に206回登っている。田淵は1回しか登らなかった山の事例として南アルプスの塩見岳を挙げている。また身近にありながら登らなかった山として有明山と餓鬼岳を挙げている。

### (4) 参考文献

- ① 『ナチュラリスト・田淵行男の世界』(山と溪谷社)